

科目	電子回路Ⅱ (Electronic Circuit II)		
担当教員	佐藤 徹哉 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	電気工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位Ⅲ)		
学習・教育目標	A4-E1(100%)		
授業の概要と方針	デジタル電子回路の基礎として加算減算回路などの各種演算回路や各種のフリップフロップの理解を深めた後、カウンタ回路、方形波を用いたパルス回路とアナログ-デジタル変換、デジタル-アナログ変換について学習する。英文プリントを参照しながらノート講義形式で授業を行う。本科目の指導にあたっては、ものづくり企業(パナソニック(株))での実務経験教員である佐藤徹哉教授が、実社会で必要とされる実務的な考え方も含めて指導を行います。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】各種類のデジタル回路の基礎を習熟後、加算回路・減算回路などの算術演算回路が説明できる。		加算回路、減算回路、RS-FF、JK-FF、D-FFなどが理解できているかを前期中間試験で評価する。
2	【A4-E1】それぞれ2つの入出力を持つフリップフロップ(RS-FF、JK-FF、D-FF、T-FF)が説明できる。また、図記号から特性表、特性方程式を求めることが出来る。		T-FF、アップ(ダウン)カウンタ、非同期式n進カウンタ、同期式と非同期式カウンタとの違いが理解できているかを前期定期試験で評価する。
3	【A4-E1】非同期式2n進カウンタやn進カウンタ等の非同期式カウンタが説明できる。また同期式カウンタとの違いが説明できる。		リングカウンタ、ジョンソンカウンタ、パルス回路が理解できているかどうかを後期中間試験で評価する。
4	【A4-E1】短時間で急激な変化をする信号を扱うパルス回路と、アナログ-デジタル変換(A-Dコンバータ)、デジタル-アナログ変換(D-Aコンバータ)が説明できる。		アナログ-デジタル変換、設計演習について理解できているかを後期定期試験で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% 自己学習評価15% として評価する。		
テキスト	オリジナルテキストとしてA4縦サイズの英文プリントを配布する デジタル電子回路で用いたDigital Principles, 3rd edition, Roger L.Tokheim, McGrawHillも併せて使用する。		
参考書	「新編マイクロコンピュータ技術入門」：松田忠重・佐藤徹哉共著(コロナ社)		
関連科目	デジタル電子回路, 計算機工学, 電子回路I		
履修上の注意事項	オリジナルテキストとして、A4縦の英文プリントを配布するので、全ての英文は授業前に読んで理解しておくこと。授業はそれらを参照しながらノート講義形式で行うので、A4縦ノート(ルーズリーフ不可)に講義内容を記録すること。演習問題も同ノートの解答すること。別途指示するレポートと合わせて自己学習評価点として評価する。		

授業計画(電子回路Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	加算回路I	半加算器は、2個の1ビットデータを加算する装置である。全加算器は、上位ビットへの桁上がり情報と、下位ビットからもたらされる桁上がり情報を受け取り加算する機能をもつ装置であることを学習する。
2	加算回路II	ノイマンの全加算器:実用されている全加算器を紹介する。並列加算器・直列加算器は、複数ビットどうしの加算を行う方法であることを学習する。
3	減算回路	半減算器は、2個の1ビットデータの減算をする装置である。全減算器は、上位ビットへ借り情報と、下位ビットからもたらされる借り情報を受け取り減算する機能をもつ装置である。加減算回路:加算器を使用して減算を行うことを学習する。
4	フリップフロップの基礎	フリップフロップ(FF)の基本的な説明、RS-FFの特性方程式を理解する、RS-FFの動作確認をする、RS-FFの応用例を示す、これらを学習する。
5	RS-FF	クロック入力端子を持つ型とそのタイミングを学習する。
6	JK-FF	JK-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
7	D-FF	D-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
8	中間試験	前期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
9	試験の返却・解答・確認とT-FF	試験の返却・解答・確認の後、T-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
10	カウンタ-I	非同期式2n進カウンタを学習する。
11	カウンタ-II	カウントを増加していくアップカウンタと、カウントを減少していくダウンカウンタを学習する。
12	カウンタ-III	非同期式n進カウンタを学習する。
13	カウンタ-IV	カウンタの誤動作の例(リセットのタイミング、ハザード、クリティカルレース)を3つ学習する。
14	カウンタ-V	カスケード接続したすべてのFFが一斉に動作する同期式カウンタを学び、非同期式カウンタとの違いを理解する。
15	定期試験の解答とカウンタ-VI	試験の返却・解答・確認の後、リングカウンタの構成例、特性表、タイムチャートを理解する。
16	カウンタ-VII	ジョンソンカウンタの構成例、特性表、タイムチャートを理解する。
17	パルス回路の基礎	パルス応答の基礎(微分応答・積分応答)を学ぶ。
18	種々のパルス回路1	非安定マルチバイブレータを学ぶ。
19	種々のパルス回路2	トランジスタを用いた単安定マルチバイブレータを学ぶ。
20	種々のパルス回路3	ゲートICを用いた単安定マルチバイブレータを学ぶ。
21	波形整形回路	入力波形を整形する波形整形回路を学ぶ、ヒステリシス特性を持ったシュmittトリガ回路について学ぶ。
22	中間試験	後期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
23	アナログ-デジタル変換	アナログ-デジタル変換の基礎を学ぶ。
24	試験の返却・解答・確認とD-AコンバータI	試験の返却・解答・確認の後、電流加算方式D-Aコンバータの基礎を学ぶ。
25	D-AコンバータII	はしご型D-Aコンバータの基礎を学ぶ。
26	A-DコンバータI	2重積分方式A-Dコンバータの基礎を学ぶ。
27	A-DコンバータII	逐次比較方式、並列比較方式A-Dコンバータの基礎を学ぶ。
28	設計演習1	デジタル電子回路の知識を用いて、応用回路の設計演習を学習する。
29	設計演習2	デジタル電子回路の知識を用いて、応用回路の設計演習を学習する。
30	定期試験の解答と発展応用	試験の返却・解答・確認の後、定期試験の解答とデジタル電子回路分野における発展的な学習について学ぶ

備考 本科目の修得には、60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である。前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。原則として試験問題も英文で出題するが、専門用語、専門表現は必要に応じて英語だけでなく日本語での理解も問うことがある。